

香川県の地震

令和7年（2025年）8月

香川県の地震活動

震央分布図、断面図	・・・	1
地震概況	・・・	2
香川県の地震表（震度1以上）	・・・	3
震度分布図	・・・	3

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果

（令和7年（2025年）9月5日）	・・・	4
-------------------	-----	---

地震一口メモ

令和6年能登半島地震に関するアンケート調査結果の公表について	・・・	5
--------------------------------	-----	---

この資料の震源リスト・震源要素(緯度、経度、深さ、マグニチュード)は暫定値であり、後日再調査の上修正されることがあります。

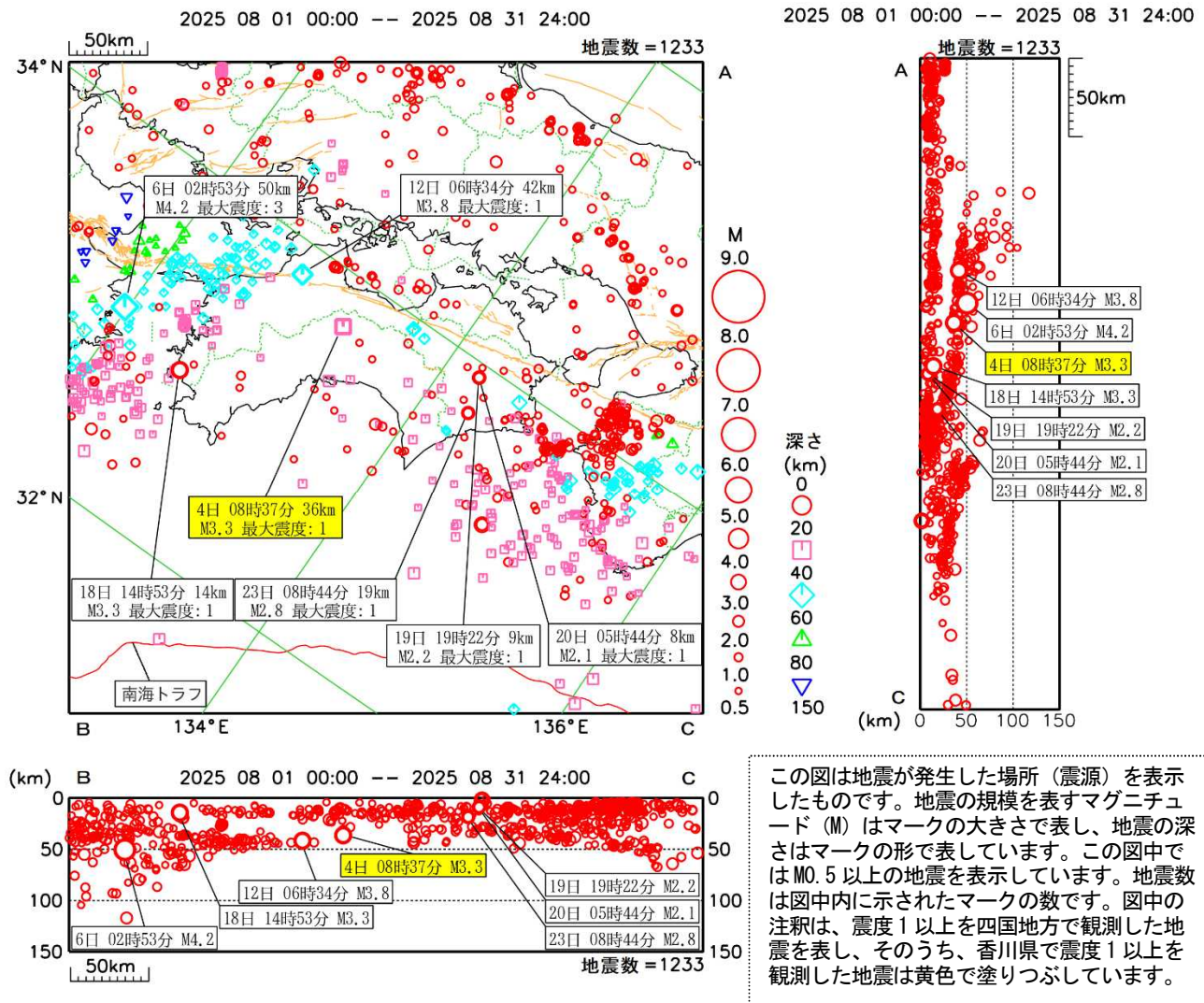
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

高 松 地 方 気 象 台

【香川県の地震活動】

2025 年 8 月

◎震央分布図、断面図



◎地震概況

香川県で震度1以上を観測した地震は、次の1回でした（前月は0回）。

4日08時37分 高知県中部の地震（深さ36km、M3.3）により、観音寺市・三豊市で震度1を観測しました。この地震では、高知県高知市・土佐市でも震度1を観測しました。

四国で震度1以上を観測した地震は、前述の他に次の7回でした。

6日02時53分 大分県中部の地震（深さ50km、M4.2）により、愛媛県宇和島市・伊方町・西予市・愛南町で震度2を観測したほか、愛媛県、高知県で震度1を観測しました。この地震では、大分県佐伯市で震度3を観測したほか、中国・九州地方で震度2～1を観測しました。

12日06時34分 愛媛県中予の地震（深さ42km、M3.8）により、愛媛県今治市・新居浜市・西条市・四国中央市・上島町・松山市・砥部町・久万高原町・東温市・宇和島市・大洲市・内子町で震度1を観測しました。この地震では、広島県、山口県で震度1を観測しました。

17日06時13分 日向灘の地震（深さ29km、M5.7：震央分布図地図範囲外）により、愛媛県宇和島市・八幡浜市・伊方町・西予市・愛南町、高知県宿毛市で震度2を観測したほか、愛媛県、高知県で震度1を観測しました。この地震では、宮崎県美郷町・宮崎市・串間市・国富町で震度4を観測したほか、中国・九州地方で震度3～1を観測しました。

18日14時53分 愛媛県南予の地震（深さ14km、M3.3）により、愛媛県愛南町、高知県宿毛市で震度1を観測しました。

19日19時22分 徳島県北部の地震（深さ9km、M2.2）により、徳島県美馬市で震度1を観測しました。

20日05時44分 徳島県北部の地震（深さ8km、M2.1）により、徳島県美馬市で震度1を観測しました。

23日08時44分 徳島県南部の地震（深さ19km、M2.8）により、徳島県牟岐町で震度1を観測しました。

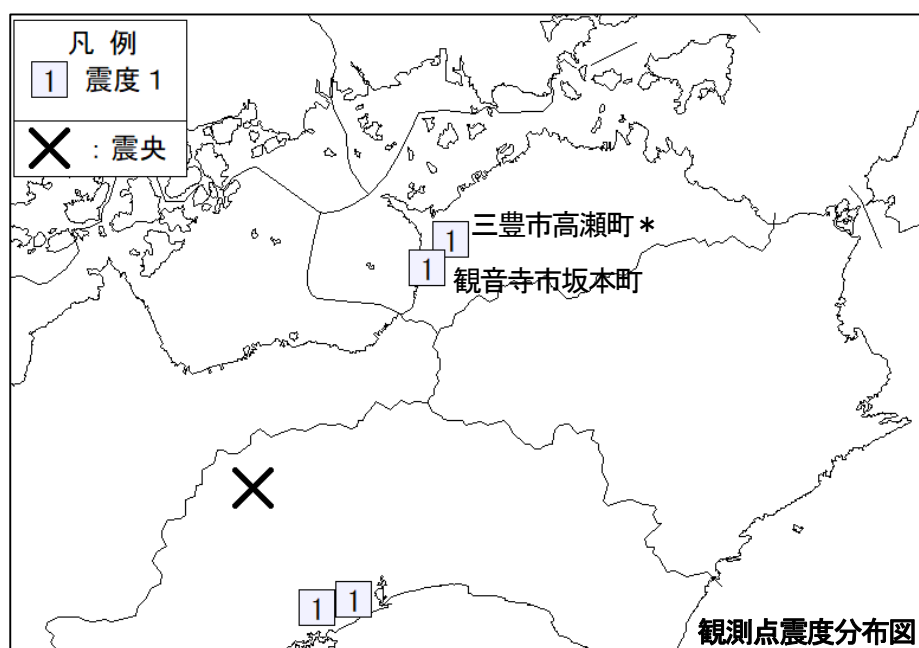
◎香川県の地震表（震度 1 以上）

震源時（年月日時分） 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2025 年 08 月 04 日 08 時 37 分 香川県 震度 1：観音寺市坂本町, 三豊市高瀬町＊	高知県中部	33° 42.8' N	133° 16.4' E	36km	M3.3

＊は気象庁以外の震度観測点

◎震度分布図

2025 年 08 月 04 日 08 時 37 分 高知県中部の地震



＊は気象庁以外の震度観測点

【南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果】

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。

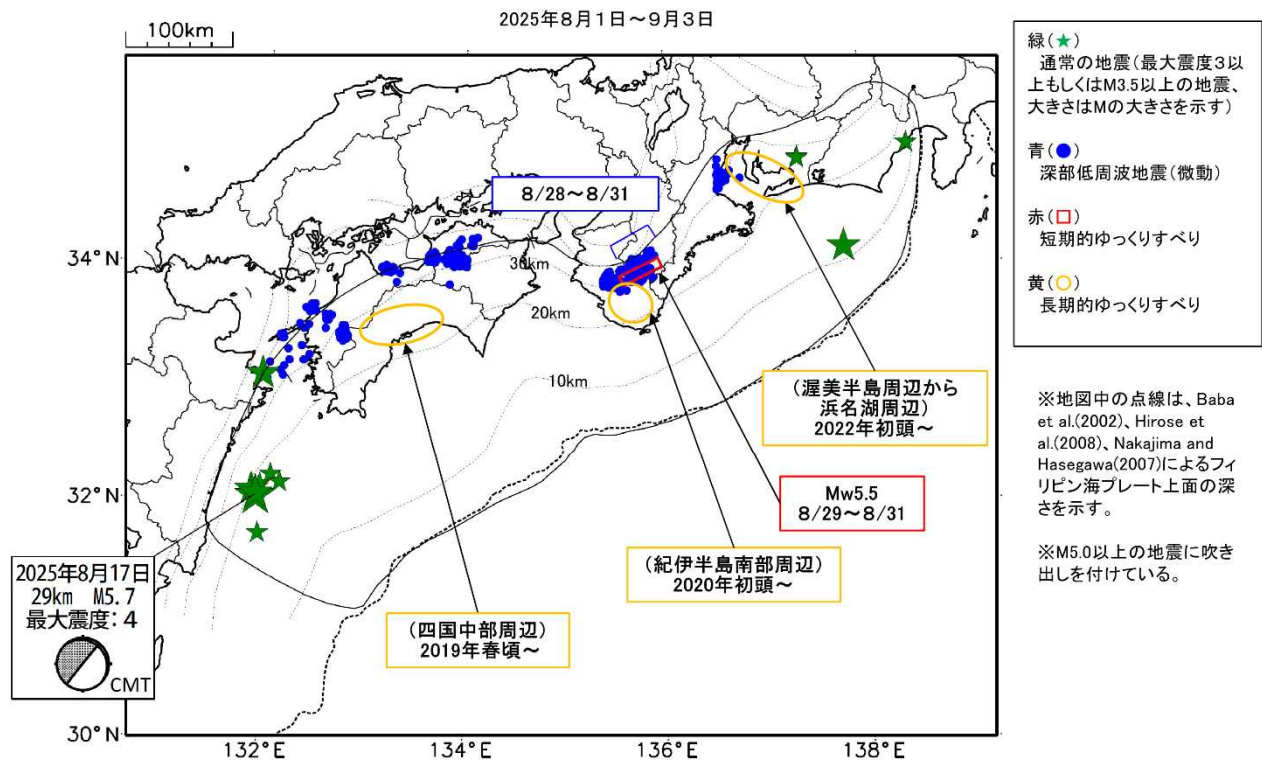
令和7年(2025年)9月5日に公表された評価検討会で評価された調査結果は次のとおりです。

【調査結果(概要)】

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時(注)と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

(注) 南海トラフ沿いの大規模地震(M8からM9クラス)は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が80%程度であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。

【最近の南海トラフ周辺の地殻活動】



通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上).....気象庁の解析結果による。
深部低周波地震(微動).....(震源データ)気象庁の解析結果による。(活動期間)気象庁及び防災科学技術研究所の解析結果による。
短期的ゆっくりすべり.....産業技術総合研究所の解析結果を示す。
長期的ゆっくりすべり.....国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

気象庁作成

上図の深部低周波地震(青●)、短期的ゆっくりすべり(赤□)、長期的ゆっくりすべり(黄○)について、これらの現象は、プレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力も得ながら注意深く監視しています。

なお、詳細は、次の気象庁報道発表資料をご参照ください。

南海トラフ地震関連解説情報について ー最近の南海トラフ周辺の地殻活動ー

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2509/05c/nt20250905.html>

また、最新の南海トラフ地震に関連する情報は次のページ(URL)をご参照ください。

ホーム>防災情報>南海トラフ地震関連情報

<https://www.jma.go.jp/bosai/nteq/>

【地震一口メモ】

令和6年能登半島地震に関するアンケート調査結果の公表について

気象庁では、大きな揺れや被害を伴う地震が発生した際に、「気象庁震度階級関連解説表」(※)の点検や、適切な防災行動及び各種情報の普及啓発の推進等への活用のため、当時の揺れの状況、緊急地震速報及び津波警報等の入手・活用状況に関するアンケート調査を実施しています。

(※) ある震度が観測された場合、その周辺でどのような現象や被害が発生するかを目安を示したもの

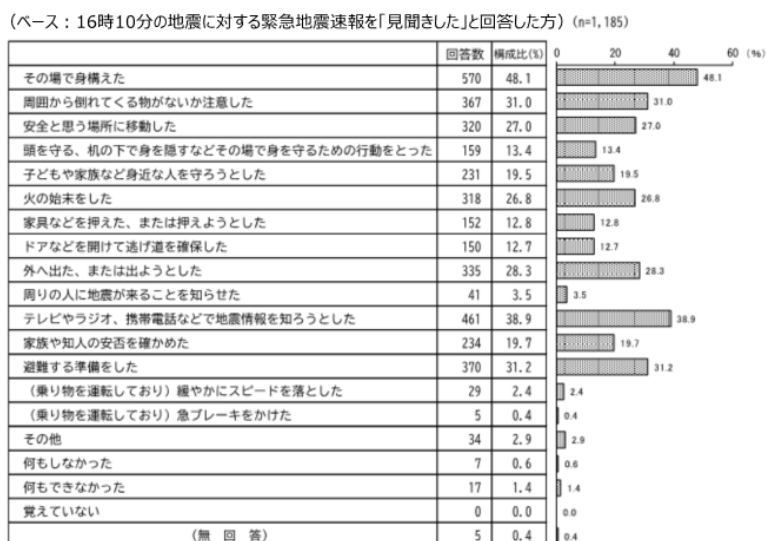
令和6年能登半島地震（大津波警報・最大震度7）に関するアンケート調査が実施され、この結果が8月8日に気象庁HPにて公表されました。調査結果の概要は以下のとおりです。

- ・各地の震度と、揺れの感じ方及び被害状況との対応状況を確認した結果、「気象庁震度階級関連解説表」の記載内容と概ね整合的であった。
- ・緊急地震速報及び津波警報等を見聞きした時、多くの方が揺れから身を守る、津波からの避難を意識する等、適切な行動を取られていた。

【アンケート結果抜粋】

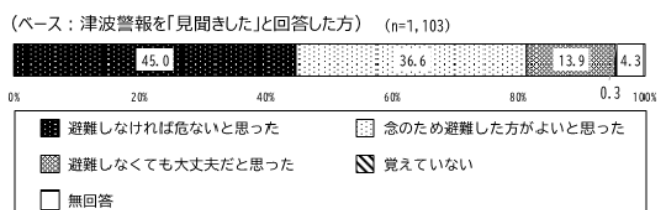
○令和6年1月1日16時10分 石川県能登地方（M7.6）の地震に対する緊急地震速報を見聞きした時の行動

緊急地震速報を見聞きすることにより、「その場で身構えた」、「周囲から倒れてくる物がないか注意した」、「避難する準備をした」、「テレビ、ラジオ、携帯電話などで地震情報を知ろうとした」など、多くの方が地震の揺れから身を守る行動を取ったり、地震に関するより詳しい情報を入手しようとしていました。



○津波からの避難の意識

津波警報を見聞きして「避難しなければ危ないと思った」「念のため避難した方がよいと思った」と回答した方は合わせて約8割で、多くの方が津波警報の発表により、津波からの避難を意識されました。



気象庁は、今回の調査結果を踏まえ、引き続き、地震津波情報の適時的確な発表を行うとともに、地震や津波の特性等を踏まえた安全知識の普及啓発に努めてまいります。

資料掲載のページ: https://www.jma.go.jp/jma/press/2508/08d/press_20250808_noto.html